

指導活用技術  
分類名〔病害虫〕

指 19	露地園芸で利用可能な天敵誘引植物
------	------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

## 要約

春作の露地野菜生産では、ハゼリソウ、そば、コリアンダーをほ場やその周辺に播種することで、土着天敵をほ場に誘引することができる。

〔 普及対象：春まきキャベツ等露地野菜生産者  
普及想定地域：県内全域 〕

## 1 取り上げた理由

施設栽培で利用が進む生物農薬としての天敵資材は、露地野菜ほ場においては登録・販売が限られているため、土着天敵の利用が期待される。近年、西日本地域を中心に一部の土着天敵の保護・強化技術が生産現場にも導入され始めている。そこで、北日本地域の春作で導入可能な天敵誘引植物について調査を行ったところ、ハゼリソウ、そば、コリアンダーが播種後、40～60日程度で開花し、土着天敵を誘引する効果が認められたので、指導活用技術とする。

## 2 指導活用技術

- (1) 天敵誘引植物をほ場やその周辺に栽植することで、開花時期にアブラムシ類の天敵であるヒラタアブ類、アブラバチ類、テントウムシ類、チョウ目害虫の天敵であるコマユバチ類が増加する（表1、2、図1、2）。
- (2) 4月に天敵誘引植物を播種した場合、そばは5月中～下旬に、ハゼリソウは5月下～6月上旬に、コリアンダーは6月中～下旬に開花する（表1、図2）。

表1 天敵誘引植物の開花時期

天敵誘引植物	品種(供給元)	開花時期	
		4月上旬播種	4月下旬播種
ハゼリソウ	アンジェリア(雪印種苗)	5月下旬	6月上旬
そば	春のいぶき(中原採種場)	5月中旬	5月下旬
コリアンダー	- (中原採種場)	6月中旬	6月下旬

## 3. 利活用の留意点

- (1) 農薬無使用の春まきタマネギ及び春まきキャベツほ場において、そば、ハゼリソウ、コリアンダーの3種（播種量はいずれも5kg/10a）を導入した場合の調査結果である。
- (2) 天敵誘引植物の開花初期には、アザミウマ類が増加する可能性があるため、極力天敵に影響の少ない薬剤を併用する。
- (3) 天敵誘引植物の天敵誘引効果は、大麦間作との併用でより発揮される（表2）。
- (4) キャベツほ場では、アオムシに寄生するアオムシサムライコマユバチの他にコナガに寄生するコナガサムライコマユバチも頻繁に観察される。両種とも成虫の体長は3mm程度であり形態も類似している。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8246)

#### 4 背景となった主要な試験研究の概要

##### (1) 試験研究課題名及び研究期間

天敵温存植物・間作を利用した土着天敵保護強化による露地野菜害虫防除技術の開発

(令和元年度)

##### (2) 参考データ

表2 天敵誘引植物栽植による  
土着天敵の増加 (キャベツほ場)

試験区	アオムシ		アブラムシ類	
	コマユバチ類寄生割合		アブラバチ類寄生割合	
	6月26日	7月3日	6月13日	6月26日
天敵誘引植物+大麦間作	9.0	49.5	26.0	7.0
天敵誘引植物	7.2	46.5	0	0.4
大麦間作	0	35.0	0	0
無処理	2.1	31.9	0	0

\*天敵誘引植物は、ハゼリソウ、そば、コリアンダーを栽植した。

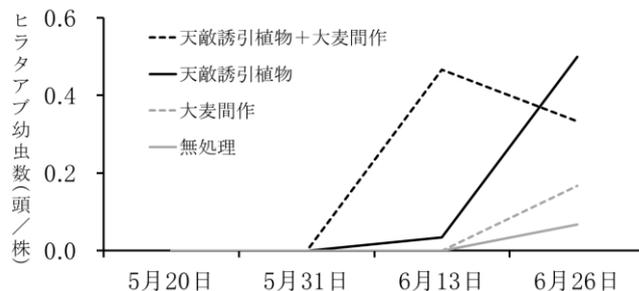


図1 天敵誘引植物栽植による  
ヒラタアブ類の増加 (タマネギほ場)



図2 天敵誘引植物と活用が期待できる土着天敵

- ① そば      ②ハゼリソウ      ③コリアンダーと捕食性テントウムシ類
- ④アオムシに寄生するアオムシサムライコマユバチ (蛹)
- ⑤アオムシサムライコマユバチ成虫      ⑥ダイコンアブラムシとダイコンアブラバチマミー

##### (3) 発表論文等

###### イ 関連する普及に移す技術

大麦リビングマルチを利用したキャベツの IPM 体系 (第 93 号及び第 94 号普及技術)

大麦リビングマルチを利用したタマネギの IPM 体系 (第 93 号普及技術)

###### ロ その他 北日本病害虫研究会及び日本応用動物昆虫学会で発表予定。

##### (4) 共同研究機関 農研機構東北農研, 農研機構中央農研, 農研機構西日本農研